

本当に便利な世の中になった。

ツイッターというネットワークサービスがある。利用者は、携帯電話やパソコンなどを使ってツイート（つぶやく）する。140文字の言葉をつぶやくという、ただそれだけのサービスなのだが、その情報を発信する手軽さ、他人のツイートを見ることができるとや芸能人や著名人が始めていることから、ツイッターは世界中で爆発的に広がった。

東日本大震災が起きてから、ツイッターはつながりを求める人たちで溢れた。時には間違った情報が流され、人々は混乱することもあったが、心のつながりを確認し合うには、十分なツールだった。

ある日、このようなツイートがあった。

ぜんぜん眠っていないで
あろう旦那に、「大丈夫？無理しない
で。」とメールしたら、「自衛隊な
めんなよ。今無理しないでいつ無
理するんだ？言葉に気をつける。」
と返事が。彼らはタフだ。肉体も、
精神も。

特集

自分を衛るは

まも



このツイートは多くの反響を呼んだ。それだけではなく、復興支援を行う自衛隊の活動は、テレビ、新聞や雑誌などの各種メディアでも大きく取り上げられ、自衛隊員への賞賛と感謝の声が相次いだ。

被災地への支援は、がれきの撤去や遺体の回収だけではない。自衛隊員は、被災者の皆さんに食事・水を配ったり、避難所で生活をする人たちに入浴する場を提供したり、多彩な支援を提供してくれた。

自衛隊は、県知事などの要請があり、人命、財産の保護のために必要になれば、支援活動を行うことができる。今年1月3日、町の矢護山付近で小型飛行機が消息を絶ち、結果として墜落、大破して発見された事故があつたが、自衛隊も要請を受け、その捜索を行っていた。

私たちは、自衛隊員のことをどれくらい知っているのだろうか。東日本大震災後、「私たちができること」や「自分のことは自分で守る」という言葉を良く耳にする。

今回の特集では、自衛隊に関わる皆さんの言葉から守ることについて考えてみたい。

人を守る。

自衛隊とは、自衛隊法第三条に

おいて、「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、直接侵略及び間接侵略に対し我が国を防衛することを主たる任務とし、必要に応じ、公共の秩序の維持に当たる」とされている専守防衛のための組織だ。

発足は戦後の警察予備隊に端を発し、保安隊に改組されるなどした後、現在の防衛省に属する国の

機関として1954年(昭和29年)

に自衛隊が誕生した。自衛隊は陸上・海上・航空とに分かれ、日夜国民生活の安全と平和のために仕事をしている。その中でも陸上自衛隊では、果たすべき役割として次の3つを掲げている。

①新たな脅威や多様な事態への実効的な対応
新たな脅威や、災害などのさま

ざまな非常事態への対応を行う。

予測困難で突発的に発生するものであるため、非常事態の実情に応じ、即応性や高い機動性を備えた部隊などを、地理的特性に応じて編成・配置することで、対応できるよう体制を整えている。

②本格的な侵略事態への備え
わが国に対する侵略などに対して、領土防衛ができるように常に備えている。防衛力の本来の役割であり、その備えをするには短期間では難しいので、装備や要員の確保を保っている。

③国際的な安全保障環境の改善のための主体的・積極的な取り組み
国際平和協力活動として、さまざまな取り組みを自衛隊だけではなく、政府全体で取り組み、常日頃から、諸外国と安全保障のための対話や防衛についての交流を積極的に推進している。

東日本大震災に係る災害支援活動などは、①の多様な事態への対応として行われている。そのために自衛隊は、日頃から訓練を欠かさず、統制のとれた組織として迅速で機能的な幅広い活躍を見せてくれている。

生

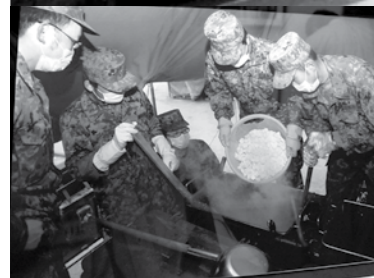
活支援第2次隊長として4月5日から5月1日まで宮城県南三陸町に支援に向かいました。5日の早朝に熊本を出発し、8日の到着と同時に1次隊より引き継ぎを実施しました。現地での任務は給水班として宮城県南三陸町ベイサイドアリーナから登米市までの往復約36km、時間にして約1時間15分を、給水の1トトレラーで毎日4〜5回往復し、給水支援を実施しました。

被

災地での給水支援任務では、平等に支給するよう心掛けていました。また被災者の身になって接するよう心掛けていました。被災を受けた現地の人々は私たちが思っ

災

害派遣に向かったのは今回で4度目ですが、長期派遣は初めてでした。それができるのも家族の理解があつてこそです。家族への感謝はいつも忘れていません。



東北に支援に行った
大津町在住の隊員
第42普通科連隊
重迫撃砲中隊 陸曹長

やまもと ふ じ お
山本富士夫さん(大林)

